

地域創生学(産業)

津山市への提言

高校生が地域産業に貢献できる交流の場「MOT」を活用して、津山市の発展に繋げる

企業×地域の協力イベント開催を行政が支援する

学校で津山市の企業を調べる時間を設ける



提言の理由

MOT(Meeting Of Tsuyama) の具体的内容

1. 津山市の企業を対象に地域課題をまじえて交流会を開く
2. 学校の代表が持ち帰った津山市の課題を学校全体で考える。授業などで行う。グループ→クラス→学年→代表
3. 次回のMOTの時に、できた案を発表する
4. 1と3を踏まえて解決策を策定する
5. 参加していただいた企業に他の魅力的な会社を教えていただく



- ・異業種との交流→他の企業、高校生からの視点
- ・同じ目標・目的の企業→繋がりが薄い
- ・魅力や取り組みが認知されていない→最大限発揮できていない
- ・企業と地域は連動→更に繋がりを深める必要がある

交流の場所が必要！

- ・企業は多いが地元で働く人が少なく活気がない
- ・イベントは行われているが、小学生くらいの年代が多く高校生は参加しにくい
- ・どのような企業があるか知るために地域と企業が接する場がほしい



津山市の将来に向けて



- ・「MOT」での結果や課題を学校へ**定期的**に持ち帰る
→ 地域への関心が高まる
- ・企業と交流できる
→ 知見が増え、視野が広がる

- ・企業×津山市民の継続的な協力イベントの開催を行政が支援する。
→ 地域と企業の関係がより身近なものになる。
- ・学校で津山市の企業を調べる時間を設ける。
→ 地域に関わろうと思う気持ちがより強くなる。

